

国際協力事業団

受入 月日 84. 8. 14	702
登録No. 02943	81.1
	EA

TV-35

MG

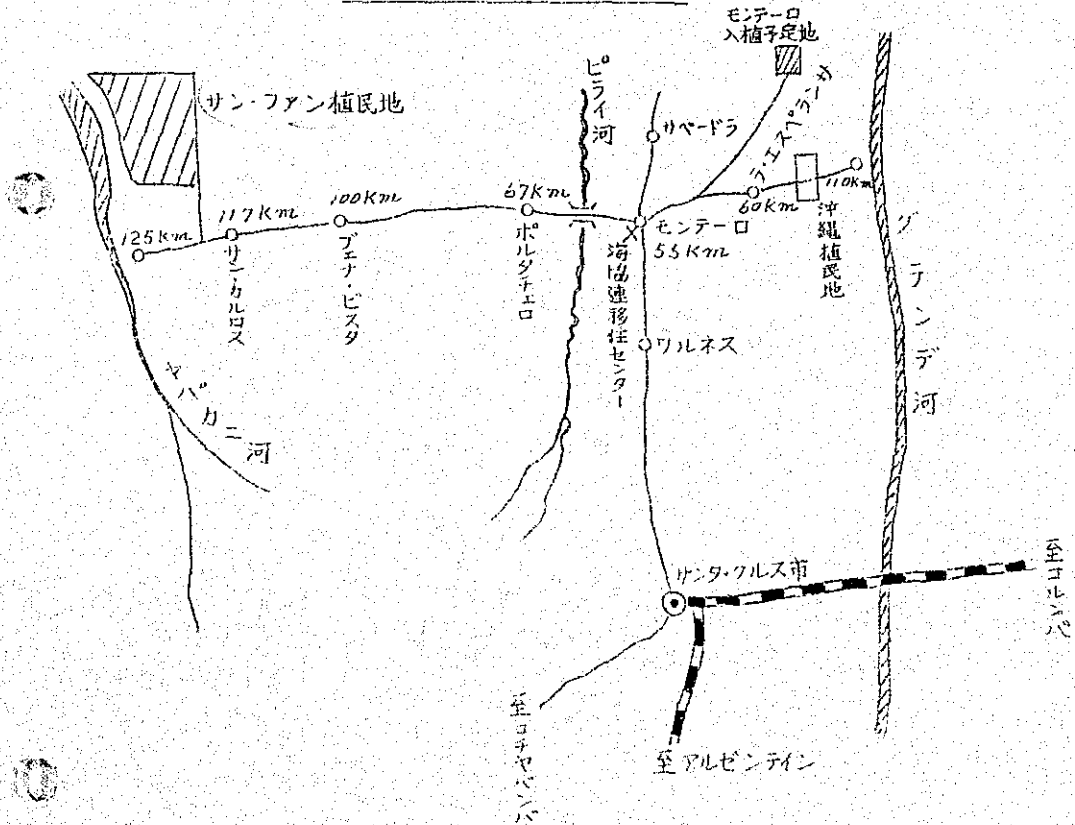
移住地資料

海協連企画課

ホ
リ
ビ
ア

§ サンタ・クルス地域における農業の状況

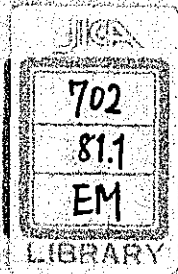
サンタ・クルス周辺図



(1) 概況

サンタ・クルス地域の総面積は約8000平方キロで、主な生産物を有する次の三つの地区に区別することができる。

(300) 59.6.1



1. モンテローロから北西の米栽培地帯。
2. ラ・エスペランサ製糖工場附近一帯の甘蔗栽培地帯。
3. フルネス以南のとうもろこし、綿、菠菜の栽培地帯。

サンタ・フルス地域における主な作物の栽培面積は次の表の通りである。表で見るとおり、とうもろこし・ユカ（マンジョカ）・米が大部分を占め、果樹類の中ではプラタノ（料理用バナナ）の栽培面積がもつとも多い。

第1表 サンタ・フルス地域における農作物の栽培面積
ならびに生産量

種 別	栽培面積	生産量
とうもろこし (Maiz)	18,000 ^{町歩}	36,000 ^屯
米 (Arroz)	13,043	15,000
ユカ (Yuca)	12,000	180,000
果 樹 類	4,609	
甘 蔗 (Caña de azúcar)	4,300	117,000
コ ー ヒ ー (Cafe)	2,739	734
牧 草	1,800	
綿 (Algodon)	800	320
カカオ (Cacao)	409	112
計	57,500	



(2) 気 候

この地方の気候はサベードラ農事試験場の観測によると次の通りである。

第2表 年別・月別雨量表

	1952年	1953年	1954年	1955年	1956年	1957年	平均
1月	342.5 ^{m.m}	242.5 ^{m.m}	237.5 ^{m.m}	545.0 ^{m.m}	205.0 ^{m.m}	530.0 ^{m.m}	283.7 ^{m.m}
2月	252.5	42.5	82.5	95.0	165.0	160.0	132.9
3月	60.0	175.0	115.0	142.5	20.0	47.5	93.3
4月	17.5	55.0	65.0	85.0	217.5	95.0	89.1
5月	17.5	175.0	70.0	65.0	50.0	87.5	77.5
6月	155.0	40.0	82.5	40.0	75.0	72.5	77.4
7月	0.0	50.0	2.5	62.5	87.5	220.0	29.9
8月	0.0	2.5	0.0	5.0	57.5	95.0	26.6
9月	112.5	37.5	77.5	0.0	57.5	-	89.0
10月	160.0	110.0	50.0	115.0	150.0	-	117.0
11月	117.5	220.0	57.5	155.0	90.0	-	128.0
12月	105.0	135.0	130.0	155.0	267.5	-	157.0
計	1,340.0	1,240.0	960.0	1,457.5	1,442.5	-	1,301.4



20

第3表 月別気温表 (1925~44年の平均)

	最高気温 (平均)	最低気温 (平均)	絶対最高気温 (平均)	絶対最低気温 (平均)
1 月	31.0°C	21.0	39.0	12.0
2 "	30.5	21.0	39.0	11.0
3 "	30.0	20.0	39.0	12.0
4 "	28.5	18.0	36.0	7.0
5 "	26.1	16.0	34.0	0.0
6 "	24.4	15.5	32.0	0.0
7 "	24.9	14.3	35.0	1.7
8 "	25.3	15.3	39.0	1.7
9 "	28.3	17.0	39.0	8.0
10 "	30.1	18.5	39.0	8.0
11 "	30.6	20.0	39.0	11.0
12 "	31.0	20.6	39.0	13.0

✂ 日本人移住者の入植しているサン・ファン地区は、以上の表の測定を行つたサベードラ農事試験場附近に比し100~200%程度降雨量が多いと云われている。

(3) 主な作物

1. 甘蔗

ポリビアは砂糖の輸入国であり人口増加に伴つて最近年々

輸入量が増加しつつある現状である。現在の年間消費量は約4万トンと云われ、カビーラ、ラ・ベルヒカ、ラ・エスパランサ等の製糖工場で生産される国内生産量の消費量に対する比率は1956年度で11.3%、1957年度で19.5%に留まった。

甘蔗栽培における問題点は、栽培がほとんど人力にたよっていること、甘蔗耕地内の道路が悪いため工場への運搬が困難なこと、品種が限定されているため収穫期が限定され工場の操業期間が限られること等のため各製糖工場が十分に發揮されていない点にあるが、一カSAIの技術指導および農業銀行の資金貸付による援助等により1957年にはその栽培面積は非常に拡大されつつある。

2. 米

米もまた国内の生産では需要を満すことができない。全国の米の栽培面積は13,000町歩に達しているが、一町歩当りの平均収量は約1,150kg程度であるから総生産量は13,000トンで国内消費量26,000トンに対し約11,000トンが不足している。

ボリビアにおける米作の中心地帯は何といてもサンタ・フルス州であるが、問題となる点も少くない。

米作における問題の主なものは、

慣例的に行なわれている不合理な栽培法・雑草被害に対する対

策の欠除・資金難・道路および運搬の問題・倉庫の不足・適当な農機具の不足等があげられる。

3. コーヒー

サンタ・クルス地方はコーヒー栽培に好条件を備えている。

コーヒーの国内消費量は50,000キントール（1キントール46キロ）で、そのうちサンタ・クルス地方は約15,000キントールを生産し、他はラパスのエンガス地方から生産される。サンタ・クルスおよびパニ地方の住民にはコーヒーを好むものが多いが他の地方では一般にコーヒーより紅茶を用いるため比較的コーヒーの需要が少く従つてコーヒーの栽培があまり重視されなかつた。当地のコーヒーの生産は生産コストが安いので輸出の可能性は充分にあると考えられる。コーヒー生産の問題点は

- ① 品質の改良・系統化が行われていないので市場価値があまりない。
- ② 栽培の技術がよく知られていない。
- ③ 調整の技術が低い。
- ④ 政策的に保護されていながつた。等の点があげられる。

4. 果樹類

当地から産出される果樹類はサンタ・クルスおよびコチャバンバ地方の需要を満しているが、ブラジル・アルゼンチンへの鉄道の完成により生産の発展が期待される。

サンタ・クルスの栽培面積は次表の通りで、その殆んどがバナナである。

生産地名	柑橘類	バナナ	パイナップル	カカオ
アンドレス・イワーネス	480 ^{町歩}	2,600 ^{町歩}	90 ^{町歩}	— ^{町歩}
フルネス	20	100	5	—
モンテロ	90	220	8	—
ポルタチエロ	20	292	10	200
ブエナ・ビスタ	124	500	—	209
合計	734	3,712	113	409

サン・ファン入植地はブエナ・ビスタに近く、その意味でカカオの適地と考えられる。一般にサンタ・クルス地方における果樹栽培業は甚だ幼稚な状況にあるから果実の加工の企業化までには相当の時日を要すると思われる。

5. 油脂作物

大豆、ヒマワリ、落花生、ゴマ等の栽培が試みられている。

大豆は1町歩当約2500kgの収穫があり、バクテリアの接種が行われれば20%の増収が可能である。油脂の含有量は19%である。

ヒマワリは1町歩当り約2000kgの収穫があり油脂の含有量は約20%、落花生では約2,500kgで含有量は35%である。

中でも大豆はもつとも栽培に容易であり、早生であつて、又緑肥ともなる。

この種作物の問題はなんといつても搾油施設の欠けている点にある。

(本文は、S・A・I = Servicio Agrícola
Interamericano の報告書をもととし支部の報告に
より一部を追加したものである。)

